

# 第1研究課題 第1B分科会

## 「教育課程に関する課題」

研究主題 「地域連携・小中連携を推進するための教頭の在り方」

ーコミュニティ・スクールを核としてー

坂出市立白峰中学校 出石伸郎

### 1 研究の概要

現在、児童生徒を取り巻く教育環境は大きく変化している。GIGAスクール構想の実現や新型コロナウイルス感染症拡大防止の取組等、喫緊の課題については、学校だけではその対応が難しい状況にあり、家庭や地域社会の支援が不可欠である。

学習指導要領の総則には、「家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携」の重要性が示されており、学校は家庭や地域社会と連携・協働し、児童生徒を育成しなければならない。特に、現在のコロナ禍においては、学校・家庭・地域社会が工夫した連携を図る必要がある。

そこで、今回、坂出市小中教頭会では、コミュニティ・スクールを核として、地域の人的・物的資源を活用しつつ、他校の効果的な取組を自校に取り入れる等、教育課程の編成における教頭の役割とその在り方について考え、研究主題を「地域連携・小中連携を推進するための教頭の在り方」に設定し、研究実践を行った。

### 2 研究の内容

実践内容	教頭としての関わり
(1) 学校運営協議会を中心とした地域連携における教頭の役割 ア 「熟議」による教育課程の編成 イ 坂出市小・中学校教頭研修会での情報共有	○ 学校運営協議会の企画・運営と教育課程における行事の計画 ○ 学校運営協議会とビジョンを共有する行事や活動の企画・運営 ○ 他校との情報交換とコミュニティ・スクールとしての活動の充実
(2) 「社会に開かれた教育課程」を推進するための学校運営協議会を中心とした地域連携	○ 「ウィズコロナ」として新型コロナウイルス感染症対策を講じた取組の情報収集と行事の企画・運営

### 3 教頭としての今後の課題

- (1) 教頭が中心となり学校運営協議会で「熟議」を行ったことで、地域の願いや学校の思い、育成したい生徒像を共有することができ、教育課程の見直しに大いに役立った。
- (2) 他校の教頭と連携を図りながら、「ウィズコロナ」のもとでの運動会や授業参観等、具体的な取組を検討することができた。
- (3) コロナ禍で様々な学校行事が中止となっているため、学校運営協議会や地域、PTAと協力して、どのような活動ができるか、教頭として検討する必要がある。

## 1 主題設定の理由

現在、児童生徒を取り巻く教育環境は大きく変化している。GIGAスクール構想の実現や新型コロナウイルス感染症拡大防止の取組等、喫緊の課題への対応は、学校だけでは難しい状況にあり、家庭や地域の支援が不可欠である。

学習指導要領の総則では、「家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携」の重要性が示されており、学校は家庭や地域社会と連携・協働し、児童生徒を育成しなければならない。特に、現在のコロナ禍においては、学校・家庭・地域が連携のあり方を工夫する必要があると考える。

そこで、今回、坂出市小中学校教頭会では、コミュニティ・スクールを核として地域の人的・物的資源を活用しつつ、他校の効果的な取組を自校に取り入れる等、教育課程の編成における教頭の役割とその在り方について考え、研究主題を「地域連携・小中連携を推進するための教頭の在り方」に設定し、研究実践を行った。

## 2 研究のねらい

- (1) 坂出支部教頭会において、小・中学校のコミュニティ・スクールの取組を情報共有し、地域連携において効果的な取組を自校の教育課程に位置付ける。
- (2) 「社会に開かれた教育課程」を推進するため、学校運営協議会を中心とした地域連携の在り方を探る。

## 3 研究の経過

- 令和元年度 … [研究課題] 地域と共に子供を育むコミュニティ・スクールの導入  
―校種や地域に応じたコミュニティ・スクールの在り方―
- 令和2年度～ … [研究課題] 地域連携・小中連携を推進するための教頭の在り方  
―コミュニティ・スクールを核として―

## 4 研究の概要

- (1) 学校運営協議会を中心とした地域連携における教頭の役割

坂出支部では、坂出市小・中学校教頭研修会の際、中学校区別や校種別で協議を行い、研修を重ねてきた。平成30年度坂出市の研究指定を受け、コミュニティ・スクールとして活動していた市内先進校の取組を参考に、令和元年度から市内全ての小・中学校が学校運営協議会を立ち上げ、教頭が地域連携の中心となり、事務局として学校運営協議会の企画・運営・資料作成等を行っている。

ア 「熟議」による教育課程の編成（坂出市立東部中学校の実践例）

「どのような生徒を育てていくか」という議題のもと実施

学校運営協議会委員とともに、学校からは管理職だけでなく、各学年主任が参加し、小グループで学校運営協議会として育成したい生徒像を共有した。3グループに分かれて意見交換を行った際、「挨拶ができる生徒」という意見が多く、地域の一員としての意識を高めることが地域の要望であった。地域の願いや学校の思いなどを述べ合い、互いの意見をすりあわせるとともに、学校運営協議会の委員と教職員が顔を合わせて話し合うことで、学校と地域とのつながりが深まる良い機会となった。

イ 「熟議」による教育課程の編成（坂出市立白峰中学校の実践例）

「どのような生徒を育成するか」という議題のもと実施

坂出市立東部中学校で行った「熟議」の内容の共有は、地域と学校が連携して生徒を育成する上で大変有効であったことから、坂出市立白峰中学校でも同様の取組を行った。

第1回学校運営協議会では、校長より経営方針や学校の実態等についてを説明を行い、学校運営協議会委員から経営方針の承認を得ることができた。その際、生徒に育成したい態度や能力等について共通理解し、意見交換を行った上で「熟議」の時間を設定した。

意見交換の中で、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、様々な学校行事や地域での活動が中止になっており、特に1・2年生は異学年交流等も含め、当初予定していた経験が十分できていないことを心配している意見が多かった。そこで、今後は学校において感染症拡大に注意しながら実施可能な活動を生徒のために行って欲しいという意見をいただいた。教頭として、会の計画・運営の中心となり地域とともに学校がめざす方向性を確認でき、大変有意義な会となった。



#### 【 生徒についての協議・共通理解 】

#### 【 「熟議」のようす 】

##### ウ 坂出市小・中学校教頭研修会での情報交換

小・中学校教頭研修会において小・中合同で情報交換を行い、先進校の取組や新しく企画した地域との活動等について話し合いを行っている。特に、昨年度から新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、様々な学校行事や地域との活動が中止となったものが多い中、「ウィズコロナ」として感染症拡大防止対策を講じた取組を参考に、教頭として自校でも地域との関わりを深める活動ができないかを検討し、企画・調整・運営を行い教育課程に位置付けた。

##### (2) 「社会に開かれた教育課程」を推進するための学校運営協議会を中心とした地域連携

教頭が中心となり、教育課程に積極的に地域の人的・物的資源の活用を位置付け、具体的な活動の企画・運営を行った。特に、地域とのつながりを重視し、「社会に開かれた教育課程」が実現できるように、見直しを図った。

##### ア 白峰校区青少年健全育成協議会の実施（坂出市立白峰中学校の実践例）

白峰中学校では、例年「白峰校区青少年健全育成協議会」を7月に実施している。本協議会は、白峰中学校区の各小学校の校長・PTA会長、学校運営協議会委員、各地区の校区青少年健全育成町民会議議長（会長）、連合自治会長、民生児童委員、保護司、校区補導員、本校PTA役員・育成部会員等学校や地域を支える方々で、生徒の情報共有や学校への協力依頼、各地区の危険箇所の確認等を行い、生徒の健全な育成をめざしている。

教頭は、各役職の名簿の作成や開催にあたり各所との調整、案内や資料作成等を行い、地域連携を担う中心となり、地域と共に取り組む活動の企画・運営を行っている。

昨年度は、コロナ禍のため「白峰校区青少年健全育成協議会」の実施を見送ったが、本年度は感染状況もふまえ、感染症対策やリモートの利用等を行った上で開催した。当日は、地域から約80名の方々の参加をいただいた。これまでは教職員も含め120名あまりが一堂に会し、講演会等を行っていたが、密を避けできるだけ短時間で実施するため講演会等は見合わせ、リモートでの挨拶や各地区での少人数による協議とした。学校運営協議会委員の方々は、それぞれの地区の中心となって活躍されており、立場の異なる方からの意見

を吸い上げ生徒の課題を見いだしたり、学校への協力を依頼したりし、地域連携の要として活動していただいている。

「社会に開かれた教育課程」の実現には、地域との連携が欠かせない。そのため、コミュニティ・スクールとしての活動は大変有効であり、地域を支えるそれぞれの立場の方と、学校の教職員が顔を合わせて協議する場の重要性を再確認することができた。



【 地区別分科会のようす 】



【 協議のようす 】

## 5 研究の成果と今後の課題

### (1) 成果

#### ア 学校運営協議会を中心とした地域連携

教頭が中心となり学校運営協議会で「熟議」を行い、地域と学校の意識や育成したい生徒像を共有することができ、教育課程の見直しに大いに役立った。

#### イ 坂出市小・中学校教頭研修会

他校の教頭と連携を図りながら、「ウィズコロナ」のもと運動会や授業参観等、具体的な取組を検討することができた。

### (2) 課題

#### ア 新型コロナウイルス感染症拡大防止を意識した学校行事の精選や再構築

以前は、職場体験学習や集団宿泊学習、合唱コンクールや運動会等、生徒が活動を通して人との関わりを深めたり、自分を客観的に見つめたりする機会があり、生徒が人間的に大きく成長する場となっていた。しかし、コロナ禍で、様々な学校行事が中止、縮小開催となっているため、学校運営協議会や地域、PTAと協力して、教育課程を見直し、どのような活動ができるか教頭として検討する必要がある。

#### イ 教職員の意識改革

学校運営協議会は地域の中心となる方々で編成されており、学校運営には不可欠な存在である。そのため、教職員一人ひとりが地域の方々との交流を通し、地域とともに生徒を育てる意識を共有する必要がある。教頭として校長の方針に従い教職員の意識改革にリーダーシップを発揮したい。